



発見!! 地域の祭り

身近なまちの
文化財ガイドブック Vol. 2

本ガイドブックは、地域に伝わる「祭り」の魅力、祭りに携わる方々の思いを伝えるために発行しました。名古屋市内にはたくさんの祭りが継承されており、そのどれもが地域の特色を持った唯一無二のものです。こうした祭りを後世に引き継ぐためにも、実際に祭り会場へ足を運び、祭りの応援団になっていただければ幸いです。

MAP

INDEX

- ① 茅の輪くぐり ― P 1-2
(毎年7月4日・5日)
- ② 七夕祭り ― P 3-4
(毎年8月第1土曜日・翌日曜日)
- ③ 提灯山 ― P 5-6
(毎年8月13日・14日・第2土曜日)
- ④ 本地祭り ― P 7-8
(毎年10月第1土曜日・翌日曜日)
- ⑤ 秋葉大祭・火まつり ― P 9-10
(毎年12月16日)
- ⑥ うそ替え ― P 11-12
(毎年1月15日・25日)
- ⑦ カッチン玉祭り ― P 13-14
(毎年2月26日)



見学に行かれる皆様へのお願い

- 冊子は令和4年3月の情報です。最新情報をお確かめの上、お出かけください。
- 参加者の皆様の妨げにならないよう、ご配慮をお願いいたします。
- 立ち入り禁止の場所には立ち入らないようにしてください。
- 祭り会場へは公共交通機関をご利用ください。

発行 なごや歴史文化活用協議会

(問合せ) 名古屋市教育局 文化財保護室
名古屋市中区三の丸3丁目1-1 電話 052-972-3220
a3268@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)

祭りの情報を発信しています。詳しくはこちらをご覧ください。
<http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000127351.html>





【上・下】子どもからお年寄りまで、さまざまな年代の人が健康を祈りつつ茅の輪をくぐる。

無病息災を祈りながら 直径2mほどの輪をくぐる

葦^{よもぎ}で編んだ直径2mを超える輪を
無病息災を祈願しながらくぐる。

昭和区の川原神社で開催される茅の輪くぐりは
地域の夏の風物詩だ。

小型トラック1杯分 大量の葦で茅の輪を作る

茅の輪くぐりは、名古屋市
内各地で夏の祭礼の一環として
行われる行事。昭和区の川
原神社でも毎年盛んに行われ
ている。参加者は無病息災を
祈りながら境内に設置された
直径2mを超える茅の輪の中
をくぐっていく。宮司の伊藤
悦子さんによると、正しい作
法は次の通りだという。

「1回くぐって左に廻ったら
八の字を描くように右廻り、
左廻りで3回輪の中を通りま
す。その時『蘇民将来』と唱え
ることを忘れずに。ぐるぐる

と3回廻ったら、最後は真っ
すぐ本殿へと向かいお参りを
します」

茅の輪の材料は西区の庄内
川の土手で採取した小型ト
ラック1杯分の葦。それを針
金製の大きな輪に巻き付けて
作っていく。当日は近隣から
大勢の参拝客が集まって、順
番待ちの列ができるほどの人
気。地域の住民にとって、大
切な夏の風物詩だといえるだ
ろう。

スサノオノミコトの 神話に由来する 茅の輪くぐり

この茅の輪くぐりは、スサ

茅^ちの輪くぐり

開催日 毎年7月4日・5日
主催 川原神社

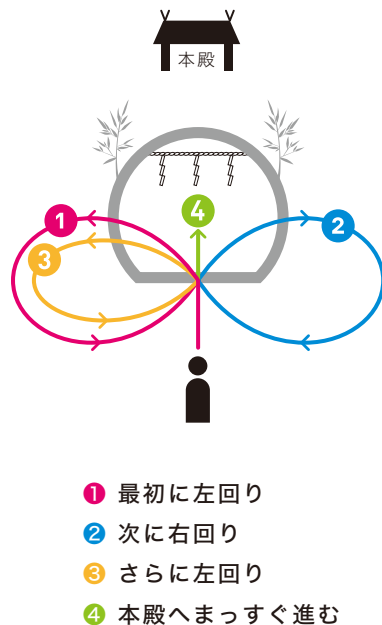
SCHEDULE

<7月4日>
12:00～ 開始
21:00 終了
<7月5日>
9:00～ 開始
21:00 終了

ノオノミコトの神話に由来する
行事だと言われている。旅
の途中に貧しい暮らしをする
蘇民将来という人物に宿を借
りたスサノオノミコトが、そ
のお礼に「蘇民将来の子孫」と
言って茅の輪を腰に着ければ
厄病を逃れることができる

告げたそうだ。スサノオノミ
コトの教えを守った蘇民将来の
娘は、誰よりも長生きをした
という。茅の輪くぐりの間、「蘇
民将来」と唱えるのはそのため
だ。
この蘇民将来の伝承は日本
各地に伝わっており、スサノ

【茅の輪のくぐり方(川原神社)】



『尾張名所図会』前編巻五「川原天神」(名古屋博物館所蔵)

オノミコト(牛頭天王)を祭る
愛知県津島市の津島神社をは
じめ、各地の神社で茅の輪く
ぐりが行われている。末社に
津島社がある川原神社でも、
古くから茅の輪くぐりが行わ
れているというわけである。
「日頃から健康で過ごしてい
ることに感謝の気持ちを持ちな
がら茅の輪をくぐっていただ
ければ」と伊藤さん。年に一
度、健康の大切さを知る、よ
い機会になるといえるそうだ。



宮司や氏子総代らが集まって茅の輪をくぐる。

おでこに 朱印を押す 赤丸神事も開催

川原神社夏祭りでは、茅の
輪くぐりのほか、本殿内で赤
丸神事も行われる。魔除けと
なる朱印を押して、健康を祈
願するという行事である。目
立ちにくいつむじに押す神社
が多いそうだが、川原神社で
はおでこに赤丸を押すとい
う。「最近では若い子たちも喜
んで押してもらっています。写
真を撮ってSNSで発信して
いるようですね」

伊藤さんが残念に思ってい
るのは、新型コロナウイルス感
染拡大の影響。ここ2年ほど
茅の輪くぐりも赤丸神事も開
催されていない。

「コロナ禍の今だからこそ、開
催すべき行事。コロナが早く
収まって、みなさんが健康で
過ごせる世の中が1日も早く
来る日を願っています」

誰もが気兼ねなく茅の輪を
くぐるのできる日が、早
く訪れることを願いたい。



境内のほぼ中央に茅の輪が設置される。



川原神社の境内にひっそりとたたずむ津島社。



たな ばた

七夕祭り

開催日 毎年8月第1土曜日・翌日曜日

主催 多奈波太神社氏子総代会

願いを込めた笹飾りが揺れる

七夕の行事

北区金城にある多奈波太神社では、古くから地域に伝わる七夕行事を後世に残すためさまざまな活動が行われている。



『尾張年中行事絵抄』秋之部 七月七日
「田畠村七夕祭」(公益財団法人東洋文庫所蔵)

江戸時代の史料に残る七夕行事

多奈波太神社は平安時代中期に編さんされた『延喜式』に「多奈波太神社」と記されるなど、1000年以上の歴史を持つ由緒ある神社だ。機織りの女神である天之多奈波太姫命(天棚機姫神)を祭っており、七夕と深い関わりがある。

地域では、多奈波太の名にちなみ、かつては旧暦の7月7日、近年では新暦の8月7日に七夕祭りが行われていた。実際に江戸時代の記録から、

少なくとも江戸時代には七夕の行事が行われていたことがわかる。たとえば、尾張地方の名所・風習・産物などを紹介する『尾張名所図会』には、次のような記述がある。

「今七夕の森といひて 例祭七月七日 燈をかがけて諸人参詣す」

また、一般の人々の間で伝えられてきた年中行事を絵と文で紹介する天保2(1831)年の『尾張年中行事絵抄』には、笹飾りを持つて歩く子どもたちの姿が描かれている。七夕祭りは多奈波太神社とそ

の周辺地域で脈々と受け継がれてきたのである。

色とりどりの短冊に込められた子どもたちの願い

七夕祭りに欠かすことのできない笹飾りは、祭り当日の朝、町内ごとに準備される。「大きくなったらアイドルになりますように」

「家族みんながいつまでも健康に暮らせますように」子どもたちが集まり、それぞれの思いが込められた色とりどりの短冊がいくつも結び

付けられると、町の中を歩きながら運び、多奈波太神社へと奉納。鳥居と神殿を結ぶ石畳にアーチをかけるように十数本の笹飾りが並べられる。

緑の笹に映えるカラフルな短冊。夏を鮮やかに彩る、将来に残していきたい光景だ。

夕方になると境内には夜店が出て、祭りはさらに賑やかさを増していく。笹飾りを眺める人、金魚すくいや輪投げに興じる人、みたらし団子をほお張る人……。2日間で1000人を超える人が思い思い

に楽しみながら、祭りの夜は過ぎて行く。

地域住民の関心を高める「夏祭りを盛り上げる会」の活動

多奈波太神社氏子総代会の伊藤勲副会長によると、昭和30〜40年代は参加者も多く非常ににぎやかに行われていたそうだ。楽しみにしている住民も多かったという。しかし最近、住民の祭りへの関心が薄れつつあると感じているそうだ。

伊藤さんは何世代も続く七夕行事を守るため、令和2年に有志とともに「夏祭りを盛り上げる会」を発足させた。金城小学校で出前講座を行うなど、さまざまな活動を行っている。

「祭りを維持・繁栄させるため、子どもたちに関心を持ってもらいたい。受け継いできた伝統というバトンを次の時代の担い手に託すことが私たちの務めです」

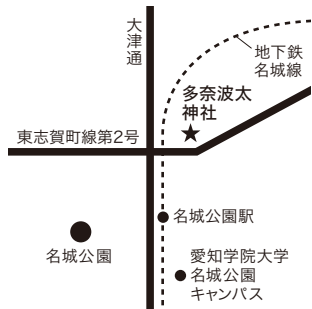
地域の文化を伝承することの意義を力強く語ってくれた。



【上】 笹に願いを書いた短冊をくくりつける近所の子どもたち。
【下】 日が落ちた頃からは境内に縁日が出て大勢の子どもたちで賑わう。



天棚機姫命のイラストが入った多奈波太神社の絵馬



SCHEDULE

- 8:00〜 近所の子どもたちが笹飾りを持って巡行
- 9:00〜 笹飾りの設置、神事
- 17:00〜 縁日
- 21:00 終了

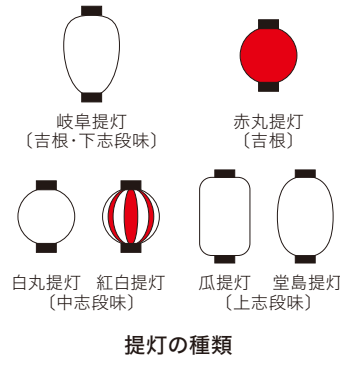
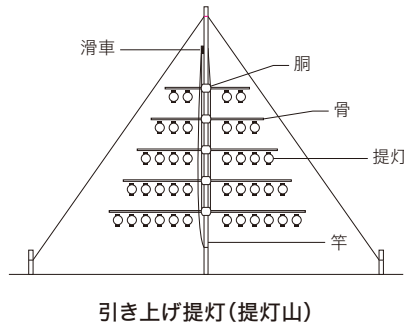
提灯山

各様の思いで文化を繋ぐ

守山区志段味の提灯山

提灯山とは
10mほどの高さがある
円すい状の提灯飾りだ。
守山区志段味では
それぞれの地区に
提灯山祭りが伝わっている。

昔ながらの提灯に
こだわる上志段味地区



守山区の各地では、「提灯山」と呼ばれる提灯飾りを組み立てて、その周りで踊りを楽しむ行事が伝えられてきた。「志段味四村」と呼ばれる地区のほか、小幡や瀬古などの区内の各地区で明治時代の後期には行われていたといわれる。戦争で一時期中断した地域もあるが、いくつかの地域で復活。古くから伝わる行事を次世代に残そうと奮闘している。そのうちの3つの地区の取り組みを紹介したい。

上志段味地区に残る提灯山は5段組。煩惱と同じ108個の提灯をぶら下げる。他の地区との違いは、縦長の長提灯を使っているところ。和紙張りの提灯で、ロウソクを使用するなど、昔ながらの流儀にこだわっている。

世話役として二十年来祭りに携わっている前自治会長の長松栄二さんは安全面や手間を考えればロウソクではなく電球を使ったほうがよいが、できる限りは昔の姿を残していきたい」と語る。

古くから伝わる文化を継承

しようと一時期保存会が立ち上がったが、令和3年度現在休止中。再開発が進み、他の地域から転入してくる人が増えている中で、地域に伝わる文化を次の世代へどう繋いでいくのか、長松さんらの挑戦は続く。

年に一度の祭りにかける
中志段味地区の百灯祭

中志段味地区の提灯山も5



中志段味地区の提灯山を下から見上げた光景。

田留美さんは、何年か前のこんなエピソードを紹介してく

れた。「朝から提灯山を立てる準備をしたのですが、夕方に大雨が降ってしまいました。中止か決行か悩みましたが、祭り開始時間の直前に雨

が止まりました。しかも雲間から月が見えたのです」

提灯山が復活し
大勢で賑わう吉根地区

吉根地区に伝わる提灯山も5段組。やや面長の岐阜提灯

を108個ぶら下げる。提灯山を立てる祭りはしばらく途

絶えていたが、地域住民有志らの手によって平成29年に復活。会場の吉根公園のグラウンドに、例年2000人ほどの来場者がやってくる大きな

行事へと発展した。

吉根連合自治会会長の小林克己さんは提灯山(提灯山保存会、盆踊り(踊りの会、笛・太鼓(神楽)、三つの会で「文化継承の会」を組織して、次の世代につなげたいと考えている。

「祭りが復活してうれしい。二度と途絶えることのないよう、時代の変化に合わせながらうまく続けていきたい」という小林さんらの思いもまた、地域の皆さんに伝わっていることだろう。

提灯山と
納涼盆おどり大会

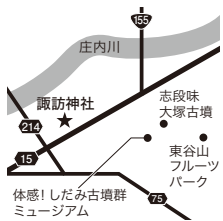
開催日	毎年8月13日
主催	上志段味自治会
場所	勝手社



SCHEDULE	
17:00~	開始
21:00	終了

百灯祭
納涼盆おどり大会

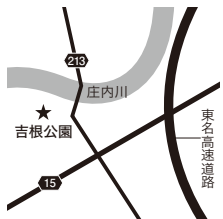
開催日	毎年8月14日
主催	中志段味連絡協議会
場所	諏訪神社



SCHEDULE	
17:00~	開始
21:00	終了

吉根納涼夏祭り

開催日	毎年8月第2土曜日 (第1土曜日の場合もあり)
主催	吉根連合自治会
場所	吉根公園



SCHEDULE	
17:00~	開始
21:00	終了



ほんじ

本地祭り

開催日 毎年10月第1土曜日・翌日曜日
主 催 星宮社氏子六町内

南区星宮社周辺で行われる本地祭りは

江戸時代の記録が残る歴史ある山車祭りだ。

山車行事としては一度途絶えたものの、住民の手で復活。

地域住民に欠かせない恒例行事となっている。

見ているだけでも
血潮が騒ぐ

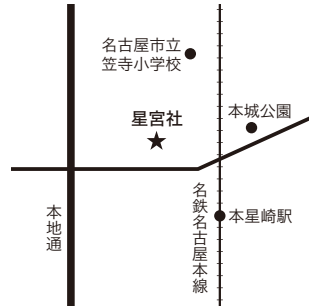
南区にある星宮社は舒明天皇(629年〜641年)の頃に創建されたとされる。本地祭りは、その星宮社の祭礼で、宝暦5(1755)年の『尾陽村々祭礼集』には、4輦の山車が引かれていたことが記録され、天保2(1831)年の『尾

張年中行事絵抄』には多くの人々で賑わう様子が描かれる。260年以上も前から行われていた歴史ある祭礼だ。

時は流れて現代の本地祭りは、江戸期の本地村にあたる4町(田古屋・廻間・本町・大道と昭和20年以降にできた2町(星宮・本城)の6つの町内で行われている。昔ながらの古い通りや、高速道路の

SCHEDULE	
<1日目>	<2日目>
12:30~	10:00~
14:30	14:30
15:00~	15:00~
16:00~	16:00~
20:00~	19:30~
21:00	21:00

山車の巡行
星宮社到着
神事・参拝
お囃子の巡行
山車の巡行
終了



星宮社に集う各町内の山車(名古屋市博物館提供)

下を走る幹線道路など、新旧入り交じった町並を絢爛豪華な山車が走る。
特に古い通りでは、民家の軒先スレスレを山車が通り過ぎていく。その姿は、見ているほうがハラハラするほどだ。また、山車の前面で伊勢音頭を歌いながら押し合う場面は見どころの一つ。その勇壮な姿は本地祭りの特長だ。

地域住民の手で

見事に復活した

勇壮華麗な山車祭



『尾張年中行事絵抄』
八月五日「本地村祭」
(公益財団法人東洋文庫所蔵)



お手製の笛

24年もの
長い中断を経て
平成の世に山車が復活

今でこそ、多くの住民に愛される祭りとなっているが、その道のりは決して平坦なものではなかった。山車の老朽化と祭りの担い手の減少により、昭和43(1968)年を最後に祭りに山車を出すことが途絶えてしまったのだ。祭りのシンボルでもある山車は、その後24年に渡って山車小屋の中にしまわれたまま。日の目を浴びることはなかったという。ようやく復活の機運が高



〔上〕昭和30(1955)年の本地祭りの様子。
〔下〕昭和30年に新調した本町の山車。

ちの大切な文化を取り戻したことを誇りに思います。本当にこの地域に住んでいてよかった」

復活した祭りの文化を
次の世代へ継承

この祭りで復活したものは山車だけではない。祭りを盛り上げる笛や太鼓のお囃子も復活した。手先の器用な柘植さんが塩化ビニル製の水道管に穴を開け、お手製の笛を製作。熱田神楽指導者の成田政明さんを講師に招き、子どもたちが神楽を習っている。

「こんな素晴らしい文化を二度と途絶えさせてはならない」と柘植さん。祭りにかける心意気が伝わってくるようだ。



トラックを改造して作った本町の山車



秋葉大祭・火まつり

開催日 毎年12月16日
主催 圓通寺

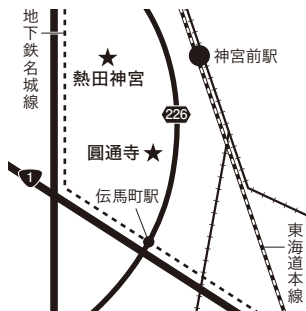
熱田区の圓通寺は火の神を祭る霊場として知られている。その寺で毎年12月16日に行われるのは、燃えさかる護摩壇を歩いて渡る、勇壮な火まつりだ。



火床の上を歩いて渡る「信者」たち。

SCHEDULE

- 18：00～ 圓通寺で無事を祈願
- 19：00～ 火まつり開始
- 21：00 終了



火の神を祭る霊場で続くまつり

熱田神宮の南隣にある圓通寺は、火の神様である秋葉大権現あきはだいこんげんが出現した日本最古の霊場と伝えられている。今から1800年ほど前、熱田神宮の境内に日本武尊を火難から救った秋葉大権現を祭る「秋葉社」としたのが始まりだ。地域の住民からは親しみを込めて「秋葉さん」とも呼ばれている。ここで毎年12月16日に行われるのが、火まつり。大護摩

の火が燃えさかる中、火防守護、諸難消滅、福德延命などを祈願しながら裸足で渡るといふ勇壮な行事だ。起源は定かではないが、100年以上は続くと伝えられている。

御嶽山信仰の修験者たちが取り組む荒行

準備は当日の朝から行われるのが通例だ。白装束に身を包んだ人たちが黙々と護摩壇を設置していく。彼らは木曽御嶽山を崇拝する「行者」と呼ばれる修行者だ。火まつりは

燃えさかる火の中を 福德を祈願しつつ歩き渡る

御嶽山を信仰する修行者が行う荒行のひとつである。護摩壇は、5メートル四方の大きさ。松の葉を何層にも重ねて作り上げていく。

午後7時、護摩壇に点火。火は勢いよく燃えさかり、人の身長の数倍はある火柱が立ち上がる。その周囲を緑の装束に身を包んだ約10人の「行者」と白装束の100人ほどの「信者」と呼ばれる人々が、取り囲むようにぐるぐると歩き続

けていく。進行方向は右回り。決して反対に進んではならないという。

火の勢いが収まると、いよいよクライマックス。火渡りの始まりである。厳粛な雰囲気の中、一人、また一人と燃えさかる火の中へと足を踏み入れる。修行の一環だからだろう。行者や信者たちは慌てず、騒がず、淡々と火床の上を渡っていく。

一般の見物客も火渡りが体験できる

行者の中心となって神事を取り仕切るのは、磯村勝嶽さん。年齢は80代半ばだというが、夏の間に御嶽山へ登り、火まつ

りの無事を祈願したという。

「何十年も参加しています。が、やけどなどしたことはありません。護摩壇のおかげで、この年になるまで大きな病気をすることもなく、健康に過ごせています」

「行者」と「信者」が渡り終えると、続いては一般客が渡る時間となる。例年、100人を超える人が列をなすほどの人気ぶりだ。

いざ護摩壇を前にして怖がる人も少なくはないが、「熱くないから大丈夫」という行者の声に促され、一人また一人と火の中を渡っていく。

「火まつりは大勢の人が楽しみにしている行事。代々受け継いできた伝統の火を消さないよう、次の世代へバトンタッチをしていきたい」と磯村さん。その思いは燃えさかる炎のように熱い。



【上】人の背丈を超えるほど、炎が舞い上がる。
【下】熱田神宮の南隣にある秋葉山圓通寺。



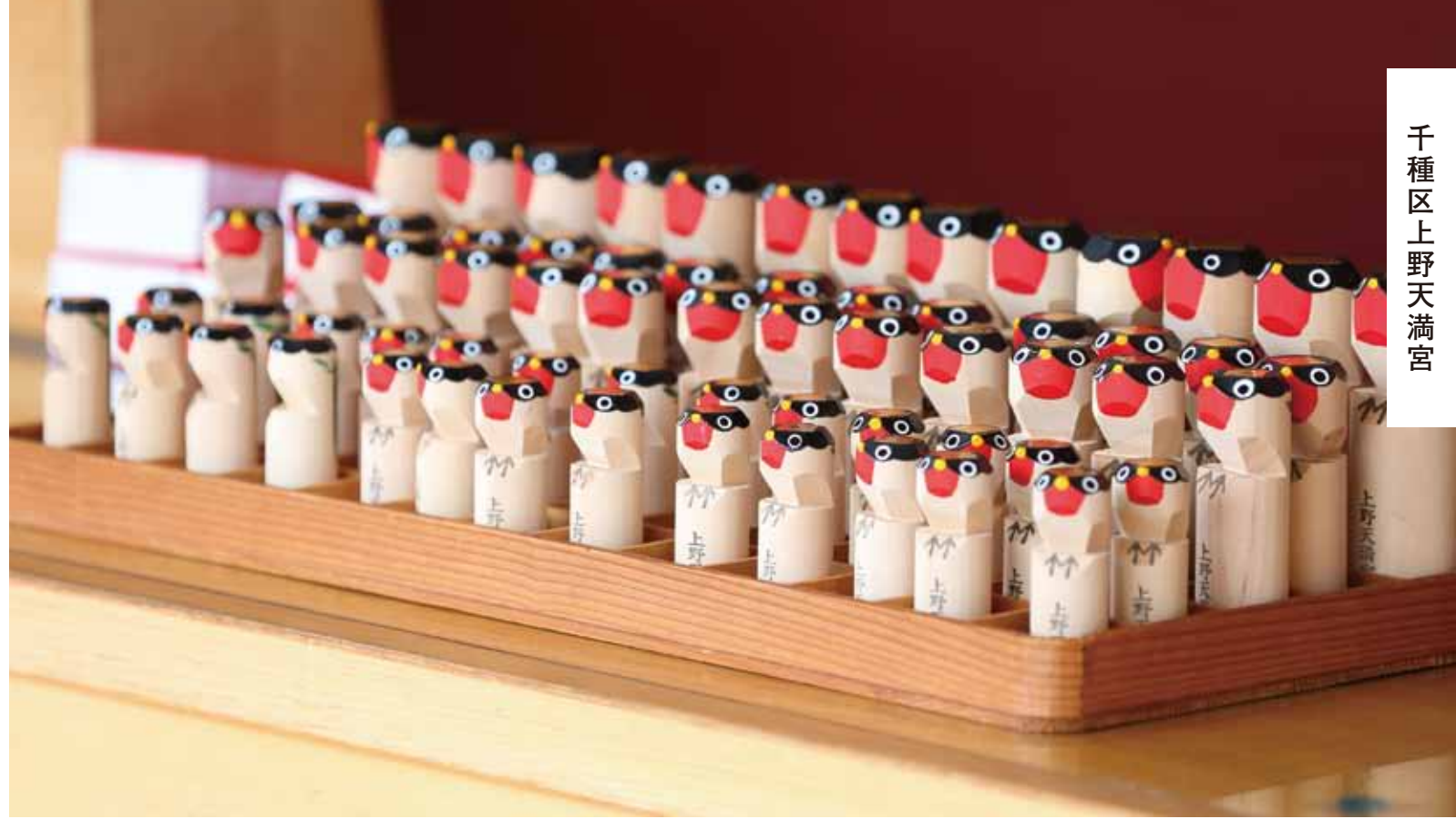
秋葉三尺坊大権現の姿が描かれている古いお札。
(秋葉山圓通寺提供)



【上・中】護摩壇は当日の朝から「行者」が手分けして設置する。【下】約5平方メートルの護摩壇が完成。



『尾張名所図会』前編巻三「圓通寺羽休秋葉宮」
(名古屋市博物館所蔵)



うそ替え

開催日 毎年1月15日・25日
主催 上野天満宮

悲しみや苦しみを
うそ鳥に託し
清く明るく新しい1年を

SCHEDULE

9:00～ うそ鳥の販売開始(なくなり次第終了)



【上】「うそ鳥」は大中小の3サイズ。
【下】所定の箱へ1年前に購入した「うそ鳥」を返納する。

悪しきことは嘘となり、
吉に取り替える―
「うそ替え」は災いを取り除き
正直の徳を守る
天神信仰から生まれた行事だ。
千種区の上野天満宮は
「うそ替え」が行われる
名古屋でも数少ない神社のひとつである。

太宰府天満宮で始まり
全国の天神へと波及

「うそ替え」とは、1年に一度「うそ鳥」を取り替えるという行事。前の年についてしまった嘘や犯してしまった過ち、はからずも味わうこととなった悲しみや苦しみをなどを「うそ鳥」に託し、「まこと」と取り替えることで新たに迎えた1年を清く、明るく、正しく過ごすために行われる。
この行事は、学問の神様と

して知られる菅原道真を祭る太宰府天満宮で始まり、全国各地の天神へと広まったものといわれる。上野天満宮は、陰陽学者の安倍晴明によって創建されたと伝えられ、菅原道真を祭る。桜天神、山田天満宮と並び、名古屋の三大天神と呼ばれる上野天満宮でも太宰府天満宮の流れを汲み、「うそ替え」が行われている。
参拝客を襲った蜂を鷺が退治したという言い伝え

そもそも太宰府天満宮で「うそ替え」が行われるようになったのは、古くからの言い伝えによるという。祭りの最中に参拝客が蜂に襲われた時、どこからかウソという鳥(雀科の美麗な小鳥)が飛んできて蜂を退治したという。その後、ご利益をもたらした鷺にあやかっつて「うそ替え」の神事が始まったそう。



学問の神様である菅原道真を祭る上野天満宮。



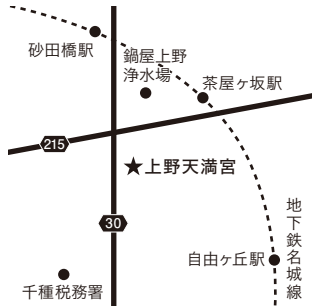
1月15日は朝から「うそ鳥」を買い求める参拝客で長蛇の列ができる。



桜天神の鷺。左の鷺の刻印「戊午」は大正7(1918)年を指す。(名古屋博物館所蔵)

愛らしい表情で家を守る
木彫りのご神体
用意される木彫りの「うそ鳥」は大中小の3種類。くりっとした目と赤いくちばしが特徴的だ。毎年2000体が販売されるが、売り切れてしまうという。最近の世情を反映して、インターネットでも販売。守り神として購入する人が年々増えているそうだ。
宮司の半田勲さんによると、まずは道真公を祭る神殿へお参りを済ませてから「うそ

替え」をするのが正しい作法。持ち帰った「うそ鳥」は神棚や戸棚などに飾っておくとご利益があるという。
「新型コロナウイルス感染拡大の影響で苦しい思いをしている人も多いのでは。うそ鳥はそんな悲しみや苦しみを乗り越えるための免罪符のようなもの。新しいものに取り替え、清々しい気持ちで1年を過ごしていただければ幸いです」
辛い思いをうそ鳥に託してみてはいかがだろうか。



愛くるしい表情の「うそ鳥」。1年の災いを嘘に替え吉兆を招くと言われている。

カッチン玉祭り

開催日 毎年2月26日

主催 六所神社



色鮮やかなカッチン玉

ピンク、白、赤、青、黄、緑…
カッチン玉と呼ばれる
色鮮やかな飴は、
安産や子どもの成長に
関する願いがこめられる。
全国的に見ても珍しい
縁起物だ。

六所神社に伝わる 旅の貴婦人のエピソード

延寿・成婚・厄除・安産の
神として知られているイザナ
ギノミコトとイザナミノミコト
を祭る六所神社。毎年2月26
日に安産祈願の祭りが開かれ
るようになったのは、古くか
らの言い伝えによるという。

その伝によると、旅の貴婦
人が六所神社の森へ差し掛かっ
たところ、急に産気づいたが、
安産水と呼ばれる井戸で無事
に子どもを産んだのが2月26
日という。その話を聞きつけ、
多くの妊婦が安産祈願にやっ
て来るようになり、明治時代

の初期にはカッチン玉が販売
されるようになったと伝えら
れている。カッチン玉という名
称は、とても固いことに由来
し、一説によると、その形はへ
その緒をかたどったものとい
う。

カッチン玉には、松明を模
したものだというもうひとつ



祭りに用いた神輿。祭り気分を盛り上げる。

2月26日にしか手に入らない

安産祈願の色鮮やかな飴

の説もある。その昔、六所神
社の周辺はうっそうとした森
で、昼間でも暗かったそうだ。
しかも、ヘビやマムシが出るた
め、滅多に人が近寄れるよう
な場所ではなかったという。
森へ入る時の必需品だった松明
をモチーフにして作ったのが
カッチン玉だという説だ。

最盛期には すべての露店が カッチン玉を販売

カッチン玉を考案したのは
六所神社の近くに工場を構え

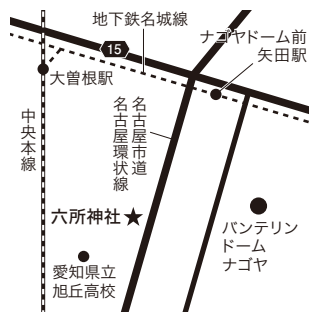
を見ない、この地域の大切な
文化です」と宮司の吉見英和さ
んは語る。

いつの時代も変わらない 子を感じる親の気持ち

令和4年2月26日、コロナ
禍で規模は縮小されたものの

2年ぶりにカッチン玉祭りが
開催された。この日を待ちわ
びていたのだろうか、境内は
朝からひっきりなしに多くの
方が訪れ、賑わいを見せた。
中でも目立ったのは、妊婦
や生まれて間もない赤ん坊を
連れた夫婦の姿。子どもの健
やかな成長を願う親の切なる
気持ちは、いつの時代でも変
わりないようだ。

「カッチン玉のご利益を体内
に取り込むために、飾るのだ
はなく、ぜひ味わってほしいで
すね」と吉見さん。ほんのりと
甘く、優しい味わいだ。



SCHEDULE
9:00～ 開始
17:00 終了

[上] カッチン玉販売専用
の露店も数店出ている。
[中] 社務所ではカッチン
玉のほか、かつしん絵馬や
力餅も販売。
[下] 境内にはさまざまな
露店が軒を並べる。

